



第3次 坂井市地域福祉活動計画 (かたいけのプラン)

アクションレポート

【令和4年度版】

～みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり～



社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

はじめに

令和4年度は、「第3次かたいけのプラン（坂井市地域福祉活動計画）」の推進期間2年目となりました。

少子高齢化や核家族化、地域社会の希薄化、多発する自然災害、コロナウイルス感染症の流行等、私たちの生活スタイルは変化し、ふだんの暮らしにおいても、様々な新たな福祉課題に直面しています。しかし、いつの時代も変わらず、地域で暮らす人々は日常の中で、自分たちの生活を良くする福祉活動を行い、「ふだんの暮らしのしあわせづくり」をしています。

坂井市内では、前年度同様、本計画による内容をもとに、行政の「地域福祉計画」と連携しながら、「地域共生社会の実現」を目指し、地域住民やボランティア、関係機関等の協働による住民主体の地域福祉活動が推進されました。

本年度も、この計画とともに、多くの『主役たち』が、坂井市の人々の『ふだんの暮らしのしあわせ』を願い、活動に取り組んだ様子を本アクションレポートにて、ご紹介させていただきます。

すべての活動は紹介できませんが、この坂井市に住む『主役たち』の「想い」の一部をみなさんにも知って頂けたら、幸いです。

最後に、本アクションレポート作成にあたり、本計画の推進検討にご協力をくださいました推進委員会、支部社協委員会の委員のみなさま、本計画とともに地域福祉を支える「地域福祉計画」の推進を行っている行政のみなさま、そして、なにより、本年度、坂井市内で地域福祉活動にご尽力をくださいました地域住民、ボランティア、関係団体のみなさまに感謝を申し上げます。

令和5年3月

社会福祉法人 坂井市社会福祉協議会

目 次

市地域福祉推進計画

アクションレポート 00

坂井市地域福祉推進計画	1
-------------	---

支部住民福祉活動計画

アクションレポート 01

みくに支部住民福祉活動計画	9
---------------	---

アクションレポート 02

まるおか支部住民福祉活動計画	11
----------------	----

アクションレポート 03

はるえ支部住民福祉活動計画	13
---------------	----

アクションレポート 04

さかい支部住民福祉活動計画	15
---------------	----

STORYS～ストーリーズ～

表紙を彩る主役たち	17
-----------	----

市地域福祉推進計画

【基本目標】

みんなが主役 ふだんのくらしのしあわせづくり

基本計画1 お互いさまのところで支えあえる人づくり

【実施計画1】 おもいあえる心を育てよう

●つながりあえる機会として地域イベントの開催

コロナ禍で休止となっていた「あい愛まつり mini」などのイベントの再開や、これまでに活用したことのなかったお寺や地域拠点施設でのイベント企画・開催を行いました。

住民の生活の中にある場を活用してのイベント開催により、これまでは参加のなかった方との出会いやつながりの場となりました。



～あい愛まつり miniの様子～

【実施計画2】 福祉に関する広報・啓発をしよう

●「子どもの居場所動画制作プロジェクト」推進中

活動者の生の想いを知り合い、伝えることを目的とし、「子どもの居場所動画制作プロジェクト」を推進しています。

プロジェクトには市内の子ども食堂3団体から計6名が参加し、地域の居場所をPRするために、「誰」に「何」を伝えたいか、「誰と」一緒に取り組みたいか等を話し合いながら動画作成を行っています。

このプロジェクトは、動画完成だけでなく、運営者にとっての活動の振り返りの場として、新たな気づき・刺激を得る機会にもなっています。完成した動画はホームページ等に掲載し、市民のみなさんにも「子ども食堂」の魅力を発信していく予定です。



～動画プロジェクトの様子～

【実施計画 3】 福祉について学ぶ機会をつくろう

●家庭科授業で高齢社会を考える

本年度の新たな取り組みとして、丸岡中学校の家庭科の授業での福祉学習を行いました。授業では、高齢社会の到来を受け、「高齢者の困りごとなどについてどのような支援ができるか」をみんなで考え、「ポケモン GO を一緒に行って、スマートフォンの使い方を教えたり、一緒に運動する」など、中学生ならではの柔軟な発想によるアイデアが出されました。

今後も、子どもたち自身が自分で考え、学ぶ福祉教育を市内に展開していきます。

丸岡町の高齢者について知ろう！

令和4年11月1日（火）

様々な困り事を抱えた
高齢者がたくさんいます。
皆さんならどのような
支援ができますか？



【実施計画 4】 一人ひとりが活躍できる活動を地域ですすめよう

●当事者団体で「選挙体験」実施

坂井市心身障害児者福祉連合会が参議院議員通常選挙にあわせ、期日前投票を行いました。当日は、選挙についての説明、練習用の投票箱で練習も行った後、投票を体験しました。心身障害児者連合会では、知的障がいのある当事者や家族が本人の権利擁護や社会参加のための様々な活動を行っています。

今回の体験では、当事者も有権者としての大事な一票を投票し、市政に声を届けました。



～期日前投票を行う様子～

【実施計画 5】 福祉の担い手を増やそう

●「福縁ボランティアポイント制度」の啓発

県民にボランティア活動始める“きっかけ”や活動継続への“励み”となるように福井県では「福縁ボランティアポイント制度」を運用しています。本制度を知らない活動者も多いため、市ボランティア市民活動センター登録団体に、改めて「福縁ボランティアカード」の配布を行いました。



基本計画2

ふれあい、支え合いの地域づくり

【実施計画1】 誰もが集える居場所をつくろう

●通いの場・サロンの一体的支援が開始

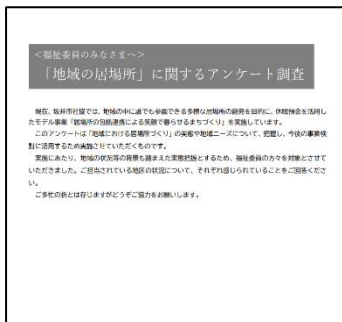
これまで「通いの場」は行政が支援し、「サロン」は社協が支援を行っていましたが、「通いの場」「サロン」とともに、地域の高齢者が集える居場所として、市内での活動増加を目指すため、本年度から一体的な活動支援を開始しました。

事業が一体化されたことで、助成金制度の改正や通いの場・サロン運営者研修会などが行われ、「通いの場」「サロン」運営者それぞれが互いの活動内容を知り、新たな情報を得るなどの効果もあり、開催回数を増やす居場所も増えました。



～通いの場・サロン運営者連絡会の様子～

●福祉委員対象に「地域の居場所」に関する調査実施



地域の中に誰でも参画できる多様な居場所の創発を目的に、福祉委員を対象に「地域における居場所づくり」の実態や地域ニーズの把握のための調査を行いました。

調査の結果、地域の居場所の必要性を感じているとの回答や、コロナ禍以降、子ども・障がい者・高齢者、どの対象者の分野についても、地域の行事が減少している状況であることがわかりました。

また、課題として、運営する人材不足や資金不足、運営方法がわからないなどが挙げられ、今後、調査結果をもとに情報提供を行っていく予定です。

【実施計画2】 ご近所の気がかりな人を早期発見しよう

●坂井市の避難行動要支援者支援登録票の改定

本年度から「避難行動要支援者名簿登録及び個別避難計画作成調査票」が改定されました。今回の改定に伴い、災害時に必要な配慮や避難経路等などの項目も追加され、発災時の備えとして、平常時から要支援者の状況が把握しやすくなりました。福祉委員や地域福祉推進基礎組織メンバーなどの地域支援者も要支援者の支援をわが事と捉え、改定内容に対する理解を深める研修を行いました。



～福祉委員代表委員研修会の様子～

【実施計画3】 地域を良くするために話し合える場をつくろう

●地区福祉委員会を市内全域で開催



～地区福祉委員会の様子～

これまでは、コミュニティセンター以下の単位での福祉委員の情報交換は、はるえ支部のみの実施でしたが、委員が気軽に話せる場が必要と考え、本年度から市内全域で地区福祉委員会を開催しました。

地区福祉委員会を実施した結果、他地区委員に刺激をうけ、サロン活動の再開や、平常時にも情報交換を行うなど、活動活発化のきっかけとなりました。

【実施計画4】 災害時も安心できる地域をつくろう

●南越前町豪雨災害へのボランティア派遣や

ボランティアセンター連絡会の研修を実施

令和4年8月に発災した南越前町豪雨災害では、坂井市からもボランティアバスが出され、多くの市民や行政職員、社協職員が支援に向かいました。

また、年1回実施している坂井市災害ボランティアセンター連絡会研修会の中で、第1部では、南越前町での災害ボランティア活動の報告にて今回の災害を振り返り、第2部では、今後の災害ボランティアセンター運営の円滑化に向け、ICTを活用したセンター運営の先進事例も学びました。

研修参加者も、「インターネットでの登録・申込みは本当に簡単」「面倒なペーパーに比べ、インターネットは便利」などの感想が寄せられ、災害時に活動者が気軽に申し込める・運営が効率的にできる方法としてICTの活用の有効性を実感する声が寄せられました。今回の研修をきっかけに、今後もセンター運営でのICTの実用化に向けた検討を継続していきます。



～災害ボランティアセンター連絡会研修会の様子～

令和5年度に向けて～推進委員から～

新型コロナウイルスの感染症が日本で最初に発見されて3年間が経ちました。地域福祉という観点から見ると、活動ができなくなった1年目、どうつながれるか模索をした2年目、そして、地域ではすでにリスタートが始まっていることに感心しています。

次年度はさらに本格的なリスタートの年として、まちづくり協議会との連携、コミュニティソーシャルワーカーのさらなる活動支援などを期待したいと思います。

基本計画3

福祉活動を応援する体制づくり

【実施計画1】 住民と専門職のつながりをつくろう

●各分野の会議にコミュニティソーシャルワーカーも参画

本年度は、ケアマネ SAKAI 運営委員会、障がい児者総合支援協議会等、様々な分野の会議にて、コミュニティソーシャルワーカーの活動説明を実施しました。結果、障がい者の地域移行時の支援や在宅高齢者の地域支援の調整等、専門職と一緒に行う地域生活支援の件数が増加しました。



～会議でのコミュニティソーシャルワーカーの様子～

●ケアマネ SAKAI への「公的保険外サービス活用促進調査」の実施

「公的保険外サービス活用促進調査」実施要領	
以下の調査について、調査結果を基に「公的保険外サービス活用促進」に関する施策を検討する。	
1. 調査対象者（ケアマネジャー）	
2. 調査項目（公的保険外サービスの活用状況、ニーズ、課題等）	
3. 調査方法（アンケート調査、インタビュー等）	
4. 調査結果の活用（施策の検討、支援体制の構築等）	

高齢者の相談支援を行っているケアマネジャーを対象に「公的な介護保険サービス外のサービス活用促進」についてのニーズ調査を行いました。調査の結果、「ニーズが多様化しており、保険外の見守り・配食・買い物・移動支援サービスなどの生活支援に関するサービスの情報を知りたい」、「移動支援や受診同行などの支援が特に必要」、「介護保険の認定者に地域の居場所を紹介するのは、介護保険とのからみや地域関係者からの受け入れが難しい」などのニーズがあることがわかりました。

今後は、本調査結果をもとに、地域住民と専門職ともに課題解決の検討を進めていく予定です。

●コロナの特例貸付終了対象者に対する独自支援の実施

新型コロナウイルスの影響による失業等の対応として実施してきた国の「緊急小口資金」「総合支援資金」等が1月以降、順次返済開始となり、いまだ生活が安定しない対象者について、「フードドライブ」にて集めた食材の提供や市社協独自の「生活たすけあい事業」による支援などを行いました。



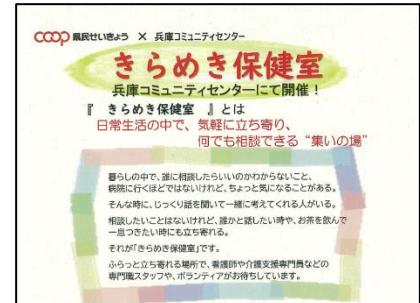
～本年度から、坂井市の福祉の相談窓口には、窓口の目印として「ここサポ」マークが掲げられています。一つの相談窓口では解決が難しい福祉に関するお困りごとを、「ここ」で、「個々」に応じたサポートで各課・各支援機関が連携しながら解決に向けて一緒に考えていきます。

【実施計画2】 民間の福祉活動を広げよう

●民間企業が集いの場を運営

10月から毎月1回、兵庫コミュニティセンターで、県民せいきょうさんが『きらめき保健室』を開催しています。この『きらめき保健室』は、日常生活の中で、「病院等に行くほどでもないけれど、だれかに話を聞いてほしい」そんな時に、気軽に立ち寄り、何でも相談できる“集いの場”として、運営しています。その他にも、リフレ調剤薬局さんが、地域のコミュニティセンターに出向き、『お薬屋さんのもの忘れカフェ』の運営を始めました。

看護師や介護支援専門員、薬剤師等、それぞれの分野の専門スタッフも運営に参加しながら、地域の方が気軽に参加でき、専門職へ相談もできる集いの場が坂井市内に増えています。



●社会福祉法人連絡会の愛称決定!!



市内の社会福祉法人の職員へ令和3年度に設立した社会福祉法人連絡会の愛称を募集しました。21点の応募があり、結果、坂井の地から福井の福祉がふくらんでいくようにとの願いが込められた『福ふく』に決まりました。

この他にも、高齢・障がい・児童の分野に限らず、若い世代が交流する『異分野交流会』を新規事業として開催しました。今後も連絡会が中核となり、社会福祉法人間のつながりづくりを行っていきます。

【実施計画3】 地域福祉の財源を確保しよう

●各種地域イベントにて「フードドライブ」を実施

課題解決に必要な「ヒト・モノ・カネ」の確保の一環として、食品ロスの削減をしながら、食を必要としている方への物資確保を行うために、あい愛まつり、ボランティアのつどいなど、様々な地域イベントで「フードドライブ」を実施しました。

「フードドライブ」活動への関わりを通して、食品を提供するということだけでなく、その先にいる市内の生活困窮者等への共感や支援協力の高まりなど、活動者の新たな意識醸成にもつながりました。

支部地域福祉活動計画

【スローガン】

やさしさと あたたかさで
みんなが安心して住める街 みくに

基本項目1

居場所づくり

●新しい居場所の誕生

三国町内に、新しく3つの通いの場が誕生しました。それぞれ「週1回開催」「男性中心」「手芸などの趣味活動」など、地域の声を大切にしながら、様々な内容で活動しています。



～新しく立ち上がった
サロンのようす～



～ひきこもり当事者との
仕分け作業～

●居場所の可能性を広げよう

いきいきサロンセンターあい愛で、ひきこもり当事者の方の社会参加支援として、定期的に軽作業を行いました。ボランティア活動者が作業に参加することもあり、当事者にとっては地域とのつながりを持てる場所、活動者にとってはひきこもりへの理解を深める場所として、居場所の新たな可能性が広がっています。

基本項目2

つながりづくり

●あい愛まつり mini の開催

三国町の福祉啓発イベント「あい愛まつり」を3年ぶりに開催しました。今回は、新たな試みであるフードドライブにも挑戦し、幅広い世代の方から、たくさんの食品の寄付が集まりました。

イベントの準備から、当日の運営、実施後の食品の配布などに、住民の



皆さんはじめ、支部社協委員や福祉委員、ボランティア活動者など多くの方々が関わり、計画にもある「今あるつながりの強化」「新しいつながりづくり」を実現することができました。

～あい愛まつり mini～

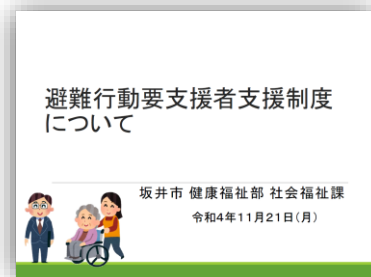


基本項目 3 地区ふくしの会の充実

●見守り活動の強化を目指して

みくに地区ふくしの会会長連絡会で、「坂井市避難行動要支援者支援制度」についての研修会を実施しました。研修を受けたことで、改めて「ふくしの会の役割」について考える機会となり、ふくしの会として「平常時にできること」と「災害時にできること」の整理が課題であることも明確になりました。

今後は、市や社協などの専門職とも連携しながら、見守り活動の強化を進めていくことを確認しました。



～市の職員による講義～

基本項目 4 安心して暮らせる地域づくり



～ふくしの会の防災研修～

●災害に備える研修会

加戸地区のふくしの会で、ハザードマップを用いた防災研修を実施しました。市の職員による講義の後、地区ごとのグループに分かれて「災害時の避難について」「災害時に備えて今できること」をテーマに話し合いました。実際の災害時の避難方法や、見守り対象者への声かけの大切さを確認しあうなど、災害に対する学びを深める機会となりました。

●支援の輪の広がり

あい愛まつりで実施したフードドライブで集まった食品は、市内の各団体の活動の支援となったほか、関係団体をとおして困窮世帯やひとり親世帯にも配布され、生活の安定、自立支援につながりました。



～配布された食品～

～支部社協委員からのメッセージ～

昨年に引き続き、今年も新型コロナウイルス感染対策を求められる一年でした。しかし、その中でも、3年ぶりに開催した「あい愛まつり」では、新しい試みである「フードドライブ」に取組み、まだ形に現れていないものを含め、予想を超える手応えを得ることができたと感じています。また、今年は、災害時に関することに関心を当てた活動が多く、地域での課題も少しずつ明確になりました。

次年度以降も、今年起こった「新しい風」を感じながら、課題に向き合い、三国の地域福祉活動の充実のための取組みを続けていきたいと思っています。

まるおか支部住民福祉活動計画（令和4年度）

レポート

【スローガン】

広げよう地域に根ざした思いやり
～1人も見逃さない絆づくり～

基本項目1

つながりづくり

●ボランティアにふれる機会づくり

ボランティアのつどい 2022 を一般住民向けに開催。ボランティア団体が普段関われないような住民と繋がる機会となり、多くの住民に対し活動啓発を行うことができました。また、フードドライブに併せて衣類などの寄付も募る通称「イロナドライブ」を実施しました。寄付を通じて地域の現状を来場者に学んでもらえる機会となりました。



～ボランティアのつどい 2022～



～サロン運営に関する講座の様子（磯部）～

●居場所の立ち上げ/運営支援

居場所の立ち上げ/運営支援を実施する基礎組織が増えてきました。内容としては一般住民を対象とした居場所に関する啓発活動や、サロン運営や新規立ち上げにおけるポイントを説明した講座の開催、講師斡旋や物品貸し出しの運営補助などがありました。

基本項目 2

連携づくり

●連携による専門性の発揮

支部社協委員会のつながりがキッカケで、基礎組織が主催する研修会（通いの場スタッフを対象としたものや区長を対象としたもの）に日赤奉仕団が講師として参加しました。日赤の強みを活かし、多くの参加者に防災の知識を伝えることができました。



～通いの場スタッフに防災グッズの作り方を伝授する日赤奉仕団（高棕西部地区）～

基本項目 3 見守りの仕組みづくり

●防災に関する制度の勉強会

福祉マップづくりの情報源としても活用されている『避難行動要支援者支援制度』について学びました。対象者の変更点や制度の目的等を確認し、要支援者の把握の方法について検討しました。



～勉強会(ふくしの会会長連絡会)の様子～

●見守りの土壌づくり(基礎組織)

区長と福祉委員の協働を助長するために敬老会事業の一環で行う粗品配布を敢えて2者で実施するよう促した基礎組織がありました。また福祉委員が見守り活動を実施しやすいよう個別見守りシートを作成した基礎組織もありました。



～粗品訪問の様子(長畝地区)～

基本項目 4 子どもの参加・こころづくり

●地域と一緒に成長する子ども達

子ども達が地域に接する機会が増えてきています。基本項目1つながらりづくりで記載されているボランティアのつどいへの協力や学校がボランティア団体をアドバイザーとして招き、子どもたちがペープサートの技術を教わる機会がありました。

また、通いの場に中学生の生徒が授業の一貫で参加することもありました。なかには地域の高齢者の悩みごとを子ども達が傾聴する場面もみられました。



～生徒にペープサートを教えるエプロンの会～

～支部社協委員からのメッセージ～

今年は『協働』の1年でした。丸岡町内にはまだまだ私たちが認知できていない協働の形が多いのではないかと感じます。その1つ1つを地道に把握していき、さらに他に連鎖させていくことが今後重要になっていきます。支部社協委員会ではまず、小さな協働にも共感し、委員間で共有していくことから目指していきたいと思ひます。

【スローガン】

思いやり 広がる地域に 幸せの輪

基本項目1 人財発掘・育成

●地域福祉推進基礎組織(地区ふくしの会)会長連絡会の実施

地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）での活動の取組強化のため、会長連絡会の開催回数を増やし、実施しました。本年度は、各組織の運営状況などの意見交換を行いました。



～連絡会の様子～

～出された意見～

- ・地区ふくしの会の目的としては、見守り活動と活動強化が重要。
- ・マップづくりの際に見守り対象者の人数を把握すると、統計上の高齢者数と比較などができるため良いのではないか。
- ・各地区で見守りマップの更新作業の手法が異なるが、今後、情報交換をしながら良い方法は自分たちの活動に反映していきたい。 など

基本項目2 場づくり

●支部社協委員会にて「居場所」の強化策検討

第2回支部社協委員会にて、「居場所」をテーマに話し合いを実施しました。

～出された意見～

- ・コロナ禍で居場所を再開してよいか、なにかあった時にだれが責任をとるのかという悩みがある。
- ・区で開催回数を増やすだけでは居場所の数は増えない。
- ・居場所の活動支援についての情報をもっと周知してほしい。（相談窓口や助成金支援など）
- ・説明会などの周知は、すでに居場所を運営している方だけでなく、多くの方に必要。など



～地域のサロンの様子～

基本項目3

つながりづくり

●ボランティア連絡会の開催

約5年ぶりにさかい支部と合同で「はるえ支部ボランティア連絡会」を開催しました。当日は、11団体の登録団体が参加し、活動のPRや他団体との情報交換を行いました。



～支部ボランティア連絡会の様子～

～ボランティア団体のみなさんの声～

- ・人生で培ってきた経験を社会のために還元したい。
- ・広報紙に古切手募集や活動助成金情報を掲載してほしい。
- ・ボランティア活動を続けてきて良かった。つながり、喜びが増える。
- ・活動の担い手不足や高齢化が課題。若い活動者を増やしたい。など

●支部社協委員会「参加団体一覧表」作成

支部社協委員会の加入団体の活動PRやお互いの活動理解を目的に「参加団体一覧表」を作成しました。



基本項目4

見守りの強化

●「避難行動要支援者支援制度」の改正に伴い、研修実施

本年度、坂井市では高齢者や障がい者を災害から守る取組み「避難行動要支援者支援制度」の改正が行われました。それに伴い、地域福祉推進基礎組織(地区ふくしの会)の研修にて、対象者の区分や登録票の内容などの変更点について理解を深める研修や防災知識を深める研修が開催されました。

～地域の防災研修の様子～



支部社協委員からのメッセージ

今年度もコロナウイルス対策を徹底したうえで、地区ふくしの会、支部社協委員会、ボランティア連絡会等の皆さんが、連絡会や情報交換会等を実施しました。また、委員会参加団体の活動内容等の共有化を図るために、はるえ支部社協委員会参加団体一覧表を初めて作成しました。

地域の福祉活動は、横のつながりを強化することがとても重要です。今後もつながりを強化する活動を行っていききたいと思います。

さかい支部住民福祉活動計画（令和4年度）

レポート

【スローガン】

「かたいけの」「おかげさんで」ぬくもり感じるまち 坂井

基本項目1 福祉の理解促進

●住民×まち協×包括(専門職)が連携し啓発

広く福祉の理解を深めるために一般の地域住民を対象とした福祉研修会（東十郷まちづくり協議会主催）が開催されました。

当日は、坂井地域包括支援センター職員による『高齢者福祉に関する制度』の説明、社協職員による『地域の支え合い』に関する講演が行われ、自身や家族等の判断能力低下時の対応や、社会・近隣とのつながりの重要性を学びました。



～福祉研修会時の様子～

参加者意見「専門職の話はわかりやすい。また参加したい」「今日の学びを家族や友達に伝えたい」「困ったら相談できる窓口を知り安心できた」

基本項目2 居場所づくり

●企業×コミセン×地域住民の居場所誕生

コミュニティセンターで、県民せいきょう坂井きらめきの発案による毎月1回（第3水曜 10:00）開催の居場所が誕生しました。

県民せいきょうは専門職（看護師、介護支援専門員等）の派遣、コミュニティセンターは場所の提供、そして、地域住民は参加者集めと、連携しながら取り組んでいます。



～月1回開催の居場所『きらめき保健室』の様子～

基本項目3

見守り

●計画推進に向け、委員会を立上げ

さかい支部社協委員会では、基本項目3「見守り」についての具体的な取組を検討するために『見守り推進委員会』を立上げました。

今後の委員会では、事例検討や研修などの学ぶ機会をもちながら、町内の見守り活動の充実や共助の意識の向上に取り組んでいきたいと考えています。

計画推進イメージ

見守り推進委員会

地域

(支部社協)

専門職・関係機関

(坂井地域包括支援センター等)



福祉教育推進委員会

地域

(支部社協)

子ども・学校

(坂井中学校)



共に「学び」×「考え」×「活動」

※計画推進は現在、令和4年度に立ち上げた「福祉教育推進委員会」と2つの委員会を中心に取り組んでいます。

基本項目4

福祉の学び

●子どもと地域と学校が共に福祉を学ぶ取り組み

「町内のふくしに触れながら、子どもたちの福祉の理解・関心を高めていきたい」という坂井中学校と地域の想いが一つになり、地域福祉推進に向けた「ワークショップ（話し合い）」の開催が決定しました。参加メンバーは生徒、教員、地域住民です。



～委員会の様子～

今後は、話し合ったことをもとに、取り組みを考え、学生と地域の大人と一緒に課題解決を目指す土台づくりにつなげていく予定です。

地域の福祉問題について、子どもも大人もより主体的に関わる意識・課題解決に取り組む意識をもつきっかけとなり、自分たちができることを見つけ、アクションにうつすことができる機会や人材を増やしていけたらと考えています。

支部社協委員からのメッセージ

5年後、10年後、50年後も、坂井町に生まれてよかったと思えるよう、地域づくりをすすめていきます。目の前にある1つ1つのことを大切に丁寧に取り組めます。

坂井町の未来が楽しみです。

STORYS～ストーリーズ～

表紙を彩る主役たち



（上段左）絵本の読み聞かせを行うボランティア活動者

・坂井市ボランティア・市民活動センター（※１）は、団体 87 団体、個人 28 名（令和 5 年 1 月末現在）の活動者が登録を行い、市内で活動しています。

写真は、県内の保育園や幼稚園、小学校、図書館などで読み聞かせ活動をしている「チャレンジ塾 福井絵本くらぶ」さんです。



（上段右）被災地支援のボランティア

・今年の 8 月 本県南越前町が豪雨災害の被害に遭いました。坂井市内からも多くの活動者がボランティア活動に向かったり、募金・寄付等を行い、被災地を応援しました。

写真は、坂井市赤十字奉仕団のみなさんが古タオルや軍手を寄贈くださった様子です。頂いた品物は、南越前町災害ボランティアセンターで被災者支援のために活用させていただきました。

※ 1）坂井市ボランティア・市民活動センター

坂井市民の方のボランティア活動に対する相談窓口。「ボランティアをしたい方」と「ボランティアをしてほしい方」をつなげる支援をしています。その他にも、ボランティア活動の広報・周知、活動に役立つ研修会等の実施、ボランティア保険の加入事務など、活動に必要な様々な支援を行っています。



（下段 1 段目左）丸岡高校 地域協働部

・近年、丸岡高校 地域協働部のみなさんが丸岡町のさまざまな地域イベントで活躍しています。「みんなに『丸岡』をもっと好きになってもらうこと」を目指して、若い力で地元を盛り上げてくれています。



(下段 1 段目中央) 生活介護支援サポーター

・自身の介護予防と支援を必要とする高齢者の生活を支え合う地域社会づくりを目指し、定期的に高齢者宅に訪問し、お話し相手や安否確認等の活動を行っています。

市内には、74 名（令和 5 年 1 月末現在）のサポーターが登録しています。



(下段 1 段目右) 地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）

・地域福祉推進基礎組織（地区ふくしの会）は、コミュニティセンター単位もしくはより細かな地域で住民主体の地域活動に取り組んでいる住民組織です。

写真は、「坂井木部ふくしの会」屋外サロンの参加者のみなさんです。新型コロナウイルス感染予防の工夫をしながら、活動を続けています。



(下段 2 段目左) 通いの場・サロン運営者

・市内の多くの区では、福祉委員などの地域住民が主体となり、地域の身近な場所に高齢者等が気軽に集える「通いの場・サロン」の居場所づくりに取り組んでいます。

写真は、『坪江サロンの会』のみなさんの様子です。



(下段 2 段目中央) カフェぽ〜とあらいそ

・最近、コミュニティセンター等でも住民が気軽に集える場所が増えてきています。写真は、雄島コミュニティセンターのリースペースで開催されているサロン「カフェぽ〜とあらいそ」の参加者のみなさんです。地域のみなさんが交代で手芸などのさまざまな体験を教えあっています。



(下段 2 段目右) こども食堂ネットワークの参加者

・こども食堂をはじめとした地域の居場所支援団体が、自分たちの活動の輪を広げていくためにこども食堂ネットワークに参加しています。「ネットワークづくり」「知り合う機会づくり」が、新たな活動の起爆剤につながっています。

*** 「かたいけのプラン」に込めた思い ***

『かたいけの』とは、昔から、福井に伝わる方言です。

『かたい』は、健康である様を表しており、「お元気ですか？」という意味のあいさつとして「かたいけの？」と使います。

最近、耳にすることもすっかり減りましたが、身体の状態を尋ねるだけでなく、心の状態も気遣うことができる、優しい福井弁です。

相手を思いやる気持ちが、本計画にピッタリでないかということで、策定委員会で決まりました。